

平成30年度 教育事業（普及啓発事業）

サバイバルキャンプ（1年目）

1 事業概要

小学生の親子を対象に、1泊2日の事業として実施した。参加者は防災に関する講義を受講した後、避難所体験として寝床作り、寝袋での就寝体験、火おこし体験、野外炊飯等、交流の家で様々な体験活動を行った。突然起きる災害時の対応等、必要な技術や知識を学ぶことができた。

2 事業の目的（ねらい）

近年日本各地で大規模災害が発生する頻度が高くなっており、防災力向上は喫緊の課題となっている。防災体験を提供することで、地域の防災力向上を図る。

3 企画・運営のポイント

昨年度は「体験の風」事業として実施したが、今年度は教育事業として企画した。

平成30年7月豪雨の際、避難所として活用されたこともあり、参加者に親子で避難所体験をしていただくことを柱とした。避難所等で想定される活動（炊きだし、火おこし、非常食作り）を体験し、災害時の対応等必要な技術、知識を身に付けるプログラムを実施した。

4 期待される効果

講義を受けてから体験することにより、充実した活動が展開されると思われる。それぞれの活動を通して技能を身に付けるだけでなく、参加者同士で協力すること、コミュニケーションの大切さが分かること、避難所生活でモラル等を配慮して行動すること等を体験することにより、突発的に起きる災害時に役立つスキルを高めることができると考える。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

6 後 援 大洲市教育委員会

7 期 日 平成31年3月2日（土）～3月3日（日）

8 場 所 国立大洲青少年交流の家

9 対 象 小学校5・6年生の親子

10 参加人数 18組46名

11 講 師 二神 透 氏（愛媛大学社会連携推進機構防災情報研究センター副センター長）

12 日 程

	14:00	14:30	15:00	16:00	19:00	20:00	22:00	22:30
2日 (土)	受付開始	開講式 入所OR	講話 「防災って なんだろう？」	「竹で箸をつくろう」(子) 「炊きだし」(親) 夕食	寝床作り ダンボール 又はテント (選択します)	入浴 休憩	就寝 準備	就寝



	6:30	9:00	10:30	12:00
3 日 (日)	起床 つどい 朝食・片づけ	火おこし体験	野外炊飯 (非常食作り)	アンケート 解散

13 内 容

(1) 「防災ってなんだろう？」

愛媛大学社会連携推進機構防災情報研究センター副センター長、二神透氏により講話をいただいた。参加者は防災に関する知識を高め、防災について考え、次の活動への期待を高めていった。

(2) 「竹で箸をつくろう」

親と分かかれ、子どもたちは竹をナイフで加工して箸を作った。職員が刃物の持ち方、削り方の見本を見せてから取り組んだ。子どもたちはナイフの扱いに慣れておらず時間がかかっていたが、自分だけのオリジナルの箸を作る事ができた。

(3) 「炊きだし体験」

親は炊きだし体験として、鶏しお鍋とご飯を野外炊飯場で作った。職員が火のおこし方から説明し、ご飯担当、鍋担当を決め、それぞれが更に役割を決めて取り組んだ。

(4) 「寝床作り」

交流の家武道場で避難所体験を行った。参加者はテント又はダンボールを選択し、親子で協力して寝床を作り、寝袋に入って就寝した。

(5) 「火おこし体験」

参加者は、メタルマッチを使って火おこしを体験した。時間はかかったが、班で協力し、どの班も最後まであきらめることなく取り組んでいた。

(6) 「野外炊飯」

火おこし体験でおこした火を使って非常食を作った。湯を沸かした鍋に、ビニール袋に入れたお米を入れ、白米を作った。少し固めに仕上がったが、市販のレトルトカレーをかけ、残さず食べる事ができた。



14 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

※満足：89% ※やや満足：11% ※やや不満：0% ※不満：0%

- 貴重な経験ができた。避難する側の立場が理解できた。
- 災害時の避難方法を考えることができた。 ○ 日々の備えが大切。



15 事業の成果

前年度は子どもだけの参加だったが、今年度は親子を対象とした。そのため、子どもたちは落ち着いて活動していたように思われる。2日間を通して、参加者の災害時の行動に対するスキルは確実に上がったようである。事業の中で、参加者同士の関わりや協力している場面もよく見られた。今後、参加者が事業で学んだことを発揮する場面はあまりあってはならないが、災害に対する備えや災害時の対応を近所の方と共有する等、何か行動を起こしてもらえればと思う。

16 事業の課題

時期的なものもあるが、防寒対策が必要であった。体調を崩した参加者はいなかったが、活動中に寒そうにしていた参加者がいたので、事業前に防寒着の準備を周知徹底しておくべきであった。

また、活動内容に専門的な技能や知識が求められるものが含まれており、指導者も火おこし等のスキルアップが必要だと感じた。職員の研修等を通して、普段から防災に対する技能・知識の習得を心がけ次回の実施に備えておきたい。

(担当：企画指導専門職 谷村 昌章)